

# ■年始の挨拶■



栃木県看護連盟会長  
宮本律子

皆様お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

昨年の台風19号において特に県南地域の方々が被害にあわれ、まだ通常の日常生活に戻れない方もいらっしゃるのではないかと案じています。心よりお見舞い申し上げます。併せて他府県の看護連盟より義援金をいただきましたことをここにご報告し、他府県の看護連盟会員の皆様にお礼を述べさせていただきます。

夏の第25回参議院選挙におきまして、皆様のご協力をいただき石田まさひろ議員が2期目の当選を果たしました。特に自民党副幹事長として、また厚生労働委員筆頭理事として、日夜ご活躍・奮闘しておられるご様子は、毎週のメールマガジン等でもご確認いただいていると思っております。

連盟の会長として、参議院選挙活動を初めて経験し感じたことは、今我々看護職が月8日以内の夜勤回数が遵守されそれ相応の手当をいただけていること、男性看護師が増えていること、看護大学が増えていていること等を当然のように受け止め、時代の流れにより自然に変化していると考えている看護職がなんと多いことかということです。このような機会に恵まれなければ、私もそうであったかもしれません。

人生100年時代となり、少子高齢化はますます顕著になります。社会の急激な変化とともに、医療界・看護界も急激に変化していくことでしょう。今の看護界を築いてきてくださった国会議員の方々、先輩方の想い・努力を知り、現在の日本において、法律・制度を変えていくために国会議員の力がなくてはならないということを改めて理解しなければならないと思います。

今年は“ナーシング・ナウ”的キャンペーン期間となっています。過去を学び、更に「看護の力で、健康な社会を！」目指し、働き続けられる職場環境を作りましょう。

皆様が活き活きと働き続けられることを祈念し、年頭のあいさつにさせていただきます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます

昨年は、全国各地にもたらされた台風や大雨に心を痛めた一年でした。また、第25回参議院選挙では、組織代表の石田まさひろ参議院議員が、二期目の当選を果たし力強い結果を残すことが出来ました。ひとえに皆様のお力と感謝しつつ、会員数だけの得票が得られないことに力不足を覚えております。

令和を迎えた日本看護連盟は、創立60周年となりました。先輩看護職が時間をかけて築いてきた職能活動は、24時間365日ベッドサイドで病める患者と共にありました。今年は新たなスローガンとともに、臨床と看護政策を結ぶ情報発信にも力を入れていきます。

予年は、新しい生命力が想像される文字をあらわし「子孫繁栄」をもたらすそうです。人生100年時代を迎えるなか、看護連盟は会員を増やし、看護協会と共に今後とも国民の誰もが安心して暮らせる社会保障のあり方を構築しつつ、看護職の地位向上をめざして、さらなる政治参加に邁進して参りましょう。

2020年・予年の幕開けです。看護連盟会員の皆様にとっても心機一転で良いスタートがされたことと思います。私は2020年・予年のこの響きに例年にない“ときめき感”と期待感があります。国民としてオリンピック・パラリンピックの開催を楽しみながら、平和な一年になることを願いたいと思っております。

さて栃木県看護協会としては、今年も看護職が自信と誇りをもって、様々な場所で様々な機会に活躍していくように応援していきたいと思います。引き続き国や栃木県の情勢を鑑みながら適時・適切に看護連盟と協働し進んでまいりたいと考えております。

少し前まで「2025年問題」と言われ議論したことは過去のものとなり、既に2040年に向けての議論が進められています。時代が変化していく中で、看護職として「変わらなければならぬこと、変えてはいけないこと」を見極めながら進んでまいりたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



衆議院議員  
あべ俊子

皆様お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

栃木県看護連盟の皆様には日頃より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

新年の清々しい空気には、国会議員としての初心が熱く思い起こされます。昨年の自由民主党新人事では国会対策副委員長を拝命いたしました。診療報酬改定など、社会保障改革の節目となる年に、縦横無尽に活動できる役職を頂けましたのも、貴連盟のご支援あってのことと、感謝申しあげます。

看護は、生活と命を繋ぐことのできる尊い職業です。

今年も、患者を中心とする多様な看護のあり方を常に考え、看護に誇りを持てる職場環境の整備に尽力して参ります。

皆様のご健勝と貴連盟のご発展を心よりお祈りし、新年の挨拶とさせて頂きます。



自民党文部科学部会長  
参議院議員  
たかがい恵美子

年頭にあたり、謹んで初春のお慶びを申し上げます。栃木県看護連盟の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。平成から令和への御代わりを経て今夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとあって、日本はいま世界で最も注目される国となっています。国政においては、国民に寄り添う豊かな成熟社会を実現するための2040年に向けた新たな社会保障制度設計の議論が進められています。これからの看護職が地域の様々な個性と専門性を活かして活躍できるよう制度整備することや、貴重な看護人材を育てる基礎教育の充実と一人ひとりの生涯を通じたキャリア形成支援の仕組みを整えていくことなど、私たちが取り組むべき政策課題は無限にあります。看護の可能性のさらなる拡がりを信じ、各々の笑顔が輝く未来に向けて、お互い支え合い力を合わせてがんばりましょう。皆様のご健勝とご繁栄を心から願い、幸多き一年となることを祈念申し上げ、ご挨拶といたします。本年もよろしくお願ひいたします。



自民党副幹事長  
参議院議員  
石田まさひろ

栃木県看護連盟の皆様、あけましておめでとうございます。今年は夏のオリンピックが56年ぶりに日本にやってくる大きな年。2020年がすばらしき一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は皆様のお力を頂き、二期目の当選を果たすことができました。選挙期間中は17日間で47都道府県を回らせていただき、皆様から温かな声援を頂戴しました。一票一票の重みをしっかりと感じながら、自らの行動で皆様の期待に応えていく所存です。

昨年9月には、参議院において二度目の厚生労働委員会筆頭理事を拝命いたしました。他の会派(野党)との調整を行う、緊張感の高い役割を再び務めることができるのは、身の引き締まる思いです。議論をしっかりと前に進めていくよう、鋭意、力を尽くしてまいります。

また、自民党においては副幹事長という役割も拝命しました。党の運営には欠かせないポジションですので、しっかりと努めて参ります。

そして当選直後から再び全国を飛び回っております。皆様からの温かいお言葉、そして「現場の声」は私の活動の原点です。その声を国政に届け、看護職が「今日も良い看護ができる!」と実感できる環境づくりのために、この六年間、再び尽力してまいります。

看護職の皆様、現場の皆様と共に手を携え活動してまいりますので、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



総務大臣政務官  
衆議院議員  
木村 やよい

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年9月の第4次安倍第2次改造内閣において、総務大臣政務官を拝命しました。これまで厚生労働行政とは違う分野での就任となり、身の引き締まる思いがいたします。副大臣、政務官とともに高市早苗大臣をお支えしてまいる所存です。

私は情報通信、放送行政、郵政行政、郵政民営化などを担当します。人口減少社会のわが国の社会保障を持続可能なものにしていくために、情報技術の活用が期待されます。情報弱者とされる高齢者や障害のある方たちが取り残されることなく、活躍できる、そんな社会の実現に努めます。

総務省ホームページ、動画チャンネルで日々の活動をご覧いただけます。

これからも女性、母親、看護職の視点を生かし、「誰もがより健康で活躍できる社会」を目指し、看護の代表の人として、看護と政治をつなぐ役割を果たしてまいります。

本年も、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



日本看護連盟会長  
大島敏子



公益社団法人  
栃木県看護協会会長  
渡邊力ヨ子